

令和七年九月 普賢光明

華嚴宗 普賢光明寺

今月の法話

一、「観音様とお地藏様」 二、「華嚴唯心偈」

一、「観音様とお地藏様」

九月は観音大祭があります。そして横浜教会の本尊開眼四〇周年となります。本当に早いものです。八月十七日には十四年ぶりに勉強会を再開しました。来られた信者さんも、懐かしく思われたと思います。大祭では横浜教会の本尊様も共に法要致しますのでご利益も大きなものですね。皆さんは観音信者です。この御縁日に功德と御守護をお祈りくださいませ。さて、観音様は、世の中の音を観ると書きます。すなわち世の中の人々の声をはっきりと見極め救済する菩薩なのです。その為に観音様はその人に相応しい姿に変わって現れます。変幻自在の観音様はある時は美しい女性や、優しい男性、可愛らしい子供の姿、鬼神の姿とあらゆる姿へ。貴方の友人、兄弟、同僚、喧嘩相手や隣のわんぱく坊主も、そしてあなた自身も観音様となるのです。仏様は私達の人の魂に宿り色々な経験や試練を与えつつ、私達の魂を導き磨かれることを助けるのです。必要な時には素晴らしい医師に巡りあったり、素晴らしいアドバイザーに出会ったりするのです。もちろん皆さんは観音様に繋がり導かれたのですからまさに選ばれたと思います。この縁はとても大切にして下さいませ。

しかし、ただ優しく何でも願い事を叶えてくれるだけではありません。時には恐ろしい顔で叱りつけることもあります。これも慈悲なのです。その人のためだと考えれば願いを叶えてくださらないこともあります。人々は欲望が強く、その欲望に応じて観音様は、正観音、十一面観音、千手観音、不空罽索観音、准胝観音、如意輪観音、馬頭観音があります。また観音様は阿弥陀如来とも同体とされ、勢至菩薩と共に人が死した時、西方浄土から迎えに来てくださるといわれ、この世とあの世の導きもされます。そして、不空罽索観音の二十八利益は、まさに現世のみならず、臨終の際のご利益も含まれます。観音信仰は千五百年以上も信仰され、全国に広まり日本人の心を救われたのです。私達は、観音の心で救える人々を身を持って対応し、自ら救済する仏とならなければならないと思います。小さな実践をしてみてくださいませ。

また観音様の次に信仰の多い仏様はお地藏様です。釈尊が入滅され五十六億七千万年後に弥勒菩薩として転生されるまでこの世を地藏菩薩に、託されたと言われています。

『地藏菩薩本願經 閻浮衆生業感品』に曰く、昔あるところに二人の王がいました。二人は苦しむ国民を見て誓願を起こされた。一人の王は一日も早く悟りを開いて仏になり人々を助おうと誓願を起こし「一切智成如来」という仏になられました。もう一人は皆を救いきるまで仏にならないと誓願をたてられ「地藏菩薩」となられました。

地藏の名の起りは人々の苦しみ悩みから救ってくださるという大悲の心が、大地のなかにあらゆる物の命を育む力が蔵されているように、人々を無限に慈しむ心を持っておられるというところから、地藏菩薩と言われたという。人々の苦しみの救済と共に、死した後も、慈悲の手を垂れて下さいます。地藏菩薩は地獄の衆生も救われ、無数の分身を作り観音様と同じように姿を変えて私たちに救いの手を差し伸べてくださいます。

釈尊が入滅され五十六億七千万年後に弥勒菩薩として転生されるまでこの世を地藏菩薩に、託されたと言われています。六道全てを救われることから六地藏の信仰が生まれ、『覚禪鈔』などにその名前と持ち物が書かれています。ただし、現在ではほとんど区別されていないようです。

地獄	大定智悲地藏	左宝珠	右錫杖	餓鬼	大徳清浄地藏	左宝珠	右与願印
畜生	大光明地藏	左宝珠	右如意	修羅	清浄無垢地藏	左宝珠	右梵篋
人間	大清浄地藏	左宝珠	右施無	天上	大堅固地藏	左宝珠	右經典
また、子育て地藏、水子地藏、延命地藏と多くの呼び名もあります。							

(真言) オン カカカ ビサンマエイ ソワカ

街道沿いや、辻そして境界等に六地藏が祭られています。その前を通ったら頭を下げ御真言を唱えてくださいませ。

二、『華嚴唯心偈』について

心は工なる画師の如く、種々の五陰を画き

一切世界の中に法として造らざるものなし。

心の如く仏も亦爾り、仏の如く衆生も然り。

心と仏と及び衆生とは是の三差別なし。

諸仏は悉く一切は心より転ずと了知したもう。

若し能く是の如く解らば彼の人は真の仏を見たてまつらん。

心も亦是の身にあらず。身も亦是の心にあらずして。

一切の仏事を作り、自在なること未だ曾て有らず。

若し人三世一切の仏をよく知らんと欲せば

应当に是の如く観ずべし。心は諸の如来を造ると。

華嚴宗において最もよく唱えられる「如心偈」は華嚴經の一節ですが、華嚴の教えを端的に表現するものとして古く唐の時代より重要視されてきました。「破地獄の偈」とも呼ばれますが、これは唐の時代の僧侶で華嚴宗の第三祖とされる法蔵が記した『華嚴經疏』に出てくる逸話に依ります。

「文明元年（六八四年）、都の人であった王某（後世では明幹）というものがいた。この者は生前善いことをしてこなかったが地獄の門前に立った時、地蔵菩薩が現れこの偈文を教えられた。これを誦誦することにより地獄苦を免れた」というお話です。この破地獄の偈は唐代の則天武后の治世（六八〇年頃）において広く流布され、それが日本に伝わったのです。ただ正確に言えば、破地獄の偈とされるのは最後の一節である「若人欲了知 三世一切仏 应当如是観 心造諸如来」なのです。私なりに意訳すれば以下のようになります。「若し過去・現在・未来のすべての仏を知りたいと望むのであれば、このように世の中を見なさい。『すべての仏を造るのは心である』と。」

この華嚴においてこの唯心の偈文がなぜ重要視されるのか。如来を造るのは「心」であるということはその逆を言うこともできるのです。地獄を造るのも「心」であるということです。現在の世界には様々な地獄が現れています。それはガザであり、レバノン、ウクライナ、さらにブルンジや南スーダンなど内戦に苦しむアフリカ諸国。世界の各地で戦争や飢餓、薬物、暴力が絶えず衆生を襲ってきます。しかし、これらの災難は執着や欲望、怒りや復讐心といった人々の持つ心が造り出した地獄に他なりません。これを破るにはまさに心をもって仏を造り出すより他にないのです。そして、仏を生み出す心を持つための工夫を仏道はずっと説いてきました。それが、祈りであり、禅であり、密教であり、念仏であるのです。すべての仏道の実践はまさにこの教えに繋がっているのです。

「心造諸如来」を目指す先と定めて、私達は仏道修行に臨まねばなりません。ゆえに、この『如心偈』（唯心偈）は必ず誦誦するように心がけてくださいませ。これは宗派や宗教に関わらない真理の教えである、どの道を通ろうとも必ずたどり着く最重要の教えであると私は確信しております。

合掌

南無日月光妙法蓮華經

*七月のラッキーカーラー、暗剣殺、五黄殺（九月八日〜十月八日） 一年通してのラッキーカーラーは緑色です。
*暗剣殺、五黄殺とは凶方位の事で移転増築や旅行など控えた方が良い方位となります。

九月のラッキーカーラー

黄色 赤 金

暗剣殺 南東

五黄殺 北西

【お知らせ】

① 十月の勉強会の日程 ○本堂 十月四日（土）五日（日）七日（火）正午より。

○横浜教会 十月十一日（土） ○横須賀支部 十月十九日（日） いずれも午後二時より

○小田原支部 十月二十六日（日） ※正午より観音祭を厳修、勉強会は午後二時より

② 不空羅索観音大祭 九月二十八日 午前十時・午後二時より

※本年は横浜教会のご本尊様の開眼四〇周年となりますので、懸仏様もご供養いたします。

③ 仏像彫刻教室 十月十二日（日） 正午より 絵画教室 十月五日（日） 勉強会後 本堂にて

※見学・体験もできますのでご興味のある方はぜひお越しくださいませ。

④ 滝行の予定 九月十四日・十月十二日 塩川滝 午前七時集合 十月二十六日 夕日の滝 午前六時集合
九月二十九日（月） 牧馬大滝 ※参加希望の方はご連絡くださいませ

『唯心偈』（現代口語訳）

心は巧みな絵かきのように、ありとあらゆるものを描き出す。
この世界の中に心がつくり出さぬものはない。

心と同じように仏もそうであり、

仏と同じように私たち衆生もそうである。

心と仏と衆生との三つには、本当の意味で違いなどはない。

すべての仏はよく知っておられます。「一切は心から生じる」と。

もしこれを正しく理解すれば、その人は真実の仏に出会うであろう。

心は肉体にとらわれず、肉体もまた心にとらわれない。

仏がなされることは実に自由自在なのである。

もし人が、過去・現在・未来のすべての仏を知りたいと願うなら、
このように世界を見つめなさい

「心こそが、すべての仏を造り出す」と。

『唯心偈』（現代口語訳）

心は巧みな絵かきのように、ありとあらゆるものを描き出す。

この世界の中に心がつくり出さぬものはない。

心と同じように仏もそうであり、

仏と同じように私たち衆生もそうである。

心と仏と衆生との三つには、本当の意味で違いなどはない。

すべての仏はよく知っておられます。「一切は心から生じる」と。

もしこれを正しく理解すれば、その人は真実の仏に出会うであろう。

心は肉体にとらわれず、肉体もまた心にとらわれない。

仏がなされることは実に自由自在なのである。

もし人が、過去・現在・未来のすべての仏を知りたいと願うなら、
このように世界を見つめなさい

「心こそが、すべての仏を造り出す」と。